

「食品産業の将来方向(仮称)」についての基本フレーム(案)
に関する意見

平成22年8月31日

食料・農業・農村政策審議会食品産業部会
懇談会

食料・農業・農村政策審議会食品産業部会懇談会としての意見

平成22年8月26日に開催された第二回食料・農業・農村政策審議会食品産業部会懇談会において提示された基本フレーム（案）に関して、大筋については各委員のご了解を得たところ。

なお、別紙のと通りの意見があったので、今後、このような意見も踏まえて「食品産業の将来方向（仮称）」の取りまとめを進めていくことを期待する。

食料・農業・農村政策審議会

食品産業部会

会長 荒蒔 康一郎

**「食品産業の将来方向（仮称）」についての基本フレーム（案）に対して
各委員より提起された主な意見**

- 「食品産業の役割」を「健康」、「おいしさ」など国民に提供できる「価値」という観点から再分類し、キーワードで表現すると分かりやすくなるのではないか。また、「未利用資源の活用」も重要な役割ではないか。
- 「食品産業を取り巻く環境変化」について、「深刻な影響を与えかねない構造的な環境変化」とは何なのかに着目し、メリハリをつけて記載することが必要ではないか。
- 「役割発揮のために中・長期的に取り組むべき課題」について、イノベーションの動向や生物多様性、水資源等の環境問題、遺伝子組換え（GMO）の問題についても盛り込んでどうか。また、消費者とのリスクコミュニケーションも重要。
- 農業者が食品産業の展開方向にどのように関わるのか明らかにすることが必要ではないか。
- 「展開方向」について、食品関連事業者、消費者などそれぞれの立場でどのようなアクションを起こせばよいのかわかるようにしていくことが必要ではないか。
- 「将来方向」を成長戦略の一つとして位置づけ、食品企業にとって今が利益を拡大するチャンスであるというメッセージを強く発信することが重要。
- 「地域経済の担い手」という視点や今後の地方分権の流れを踏まえれば、今後、地方自治体を交えたディスカッションを行うことが有益ではないか。